

# お便りをいただきました

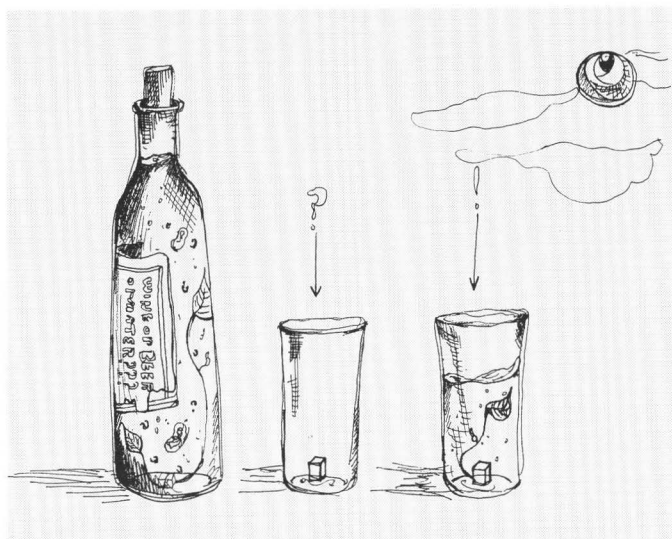
『阪神大震災を記録しつつける会』

高森一徳さんより

拝啓

猛暑が続きます。お変わりなくご活躍のことと存じ上げます。

第45号を拝読しました。タイムリーな「スーパの味は南北統一」の記事、面白く読ませていただきました。



また、私どもの「阪神大震災2000日の記録」をご紹介いただきありがとうございます。

活動の趣旨や、本の内容を要領よくおまとめくださり、感謝しております。

日頃より、機関誌の継続出版のご努力に敬意を抱いております。何かとご苦労とは存じますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

まずは、お礼まで。

残暑も厳しく、しかも続くようです。皆様、くれぐれもお身体ご自愛ください。

草々

長野県飯山市役所農林課

清水さんより

神戸のみなさんはお元気でしょうか。自治労のボランティアで、長田区へお手伝いに行かせていただきました。

今でも、私は役に立ったかどうか疑問に思いますが、毎月送っていただいている震災資料室だよりを見て、復興にむけ、さらに発展して行こうとする神戸の皆さんに、感動を覚え、『とりあえず、少しは役に立ったと思う』と考えています。震災の時は当然のように神戸へ行きましたが、今ではなかなか訪れることができません。いつかまた、必ず伺わせていただきます。ヒマワリの種をありがとうございます。

大好きな花です。

## 震災資料室からのお知らせ

### 秋の震災資料室展と職員作品展

職員作品展

とき 00年11月14日(火)

11月17日(金)

9時半～16時まで

ところ 区民ギャラリー

(長田区役所7階)

みなさん、ぜひ

おこしください。

人街ながた資料室では、震災資料の収集・保存活動を行っています。

「日誌・ピラ・写真等」の提供をお願いします。

震災資料室に保管し、公開してゆきます。

## 人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた

震災資料室

発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-13

電話(078)579-2311

発行人/寿 広文

編集人/武川・福島・山西

第46号

## 三宅島全島民避難

自治労東京・人見一夫さんから緊急レポート届く

伊豆諸島で地震が頻発して約三ヶ月が過ぎようとしている。

三宅島においては地震のみならず雄山の噴火による火砕流・降灰による泥流が度々発生し被害が拡大している。都は六月二七日、災害対策本部を設置して(六月三十日廃止、八月二九日再設置)島民の支援をおこなっている。九月二日には雄山の噴火で三宅村長は島外避難指示を出し防災要員を除き三千名以上の避難がおこなわれた。また台風二号の接近で防災要員も東京湾へ一時避難した。

島外避難した住民の多くは都営住宅等で生活している。現在、三宅村は都公文書館に事務所を設置して業務を行っている。長谷川村長は「泥流により道路・電気・通信

への被害があり、観光・農業そして漁業も打撃を受けている」また村職員の島村委員長は「大変困難な勤務状況だが職員一同頑張っている」と話された。

新島・神津島では崩落の跡が随所にある道路の復旧が当面の緊急課題である。また水道水の確保やゴミ処分も問題である。

自治労都本部はカンパをはじめ具体の支援活動を企画しているが、全国の皆さんからのご支援をお願いしたい。

(自治労東京都本部 ☎ 〇二二二三三四一〇二四一)



人·街

ながた

一九九五・一・一七

阪神大震災  
神戸市長田区役所  
職員記録誌

平成十二年九月五日に北海道にあり先日噴火した有珠山で被害の大きかった北海道虻田郡虻田町の職員の方から一通のFAXが資料室に届きました。

それには、長田区役所職員の震災当時の状況や資料の記録をまとめ、冊子にした《人・街　ながた　一九九五・一・十七》を送付してほしいというものでした。その方は、虻田町で教育委員会　社会教育課長をされている中野　淳さんで、今年三月の有珠山の噴火の時には、全避難施設の責任者としての業務や災害のFM放送の設立に

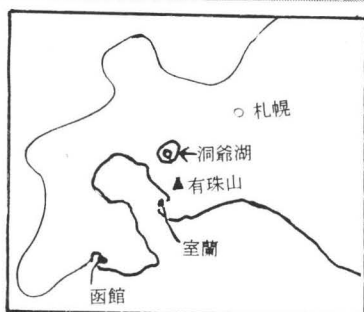
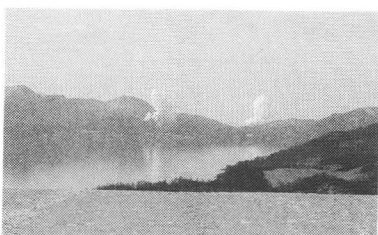
虻田町からの一通のFAX

平成十二年九月五日に北海道にあり先日噴火した有珠山で被害の大きかった北海道虻田郡虻田町の職員の方から一通のFAXが資料室に届きました。

それには、長田区役所職員の震災当時の状況や資料の記録をまとめ、冊子にした《人・街　ながた　一九九五・一・十七》を送付してほしいというものでした。その方は、虻田町で教育委員会、社会教育課長をされている中野　淳さんで、今年三月の有珠山の噴火の時には、全避難施設の責任者としての業務や災害のFM放送の設立に

震災資料一覽作成一段落！

平成7年の震災以降から収集してきた震災関係資料の保存一覧表がこのほど一通り完成しました。まだ少し、手直しの必要があるところがあるかもしれませんが、



関する業務にたずさわり、そして、今ようやく一息つける状態になってきているとのことでした。

今回、長田区に震災当時の記録をまとめた本があるというのを筑波大学の滝田氏から聞かれ、今後の災害時における防災や避難施設運営の手がかりになればと思い、依頼してこられたそうです。

一段落したのでお知らせします。

資料数は、約800にものぼっています。著者は、神戸市及び他の市区町村、法人関係、ボランティア、個人によるもの等、様々で、資料も本、小冊子、日誌、メモ、ポスター等、色々なものがあります。

分類としては、次の5つに分けてみました。  
①避難所②建築③ボランティア④医療・福祉⑤その他

今後、資料は増えることだと思いますが、随時、資料一覧のなかに入れていく予定です。

(阪神大震災特集)

②主食等数量変更の報告綴り(毎週月曜)(毎月9日午前中報告)

①避難所概要調査綴り(毎週水曜日午前中報告)

物資納品書綴り 1冊

衛生 1冊

掃除当番 1冊

YMCAボランティア出席表 1冊

衣料品台帳 1冊

引継メモ兼用 連絡ノート H7.6.7~  
H7.5.30迄

引継メモ兼用 連絡ノート  
1995年1月17日午前5時46分  
阪神・淡路大震災復興支援動員  
阪神大震災と市民ボランティア  
松本市からのボランティアの記録  
阪神・淡路大震災における消防活動  
12冊

引継メモ兼用 連絡ノート④ H7.6.7  
雪  
都市計画(震災特集)  
街の足跡

消防活動情報交換会  
・淡路大震災活動  
・そして明日へ  
一長田保健所救護課  
一長田保健所救護課  
二記録 一東灘保健所  
報 平成6年度(震災関係活動記録合号)

救急医療と市民生活  
阪神大震災のメンタルヘ  
わたしたちの医療管理  
福祉における危機管理  
早期復興をめざし  
ある病院と震災の  
病院における震  
おまねく  
市民福祉  
20巻

せんだくボランティアの今―

震災時千八百人が避難していた蓮池小学校での洗濯ボランティアを本紙の四四号で紹介したところ、当時活動されていた方々とお会いできた。

洗濯ボランティアを呼びかけた福本良江さんは西区へ越してくるまでの三十年間は東灘で生活をされていた。「その生まれ育った街が全て壊れ新聞の死亡者欄には知った方々の名前があり、何も誰の力にもなれないのが辛く、むなしく胸が張り裂ける」思いだった。そこで、幼子がいてもできることは何かをグループの執行照子さんらと相談をして始めたのが洗濯ボランティアだ

つた。

二月十三日から始め、月・水・金の十時から十時半に洗濯物を預かり自宅で洗い、干して二日後に持っていった渡す。

当初は地下鉄で板

宿まで行き蓮池小学校まで歩いていたが後になって三菱重工労組が運搬を担ってくれた。



蓮池小学校の校門を入った校舎の玄関前に立ち首から看板をぶら下げて「洗濯物を預かります」と呼びかけたそうで、ボランティアに参加された方は七二名で四百二十三袋（一軒分づつビニール袋に入れて受け渡しをした）を洗濯された。

三月下旬になると水道も復旧し学校の近くのクリーニング店が再開する話が耳に入り末日で活動を終り自宅で報告会を行なった。活動を記録したノートには預かった方

の名前と〇〇教室とか体育館とか避難場所  
が几帳面な字でぎっしり書かれている。

ボランティアの体験

四月一日、福本さんの子どもの保育園の入所式（西神ニュータウンは子どもが多くて保育園・幼稚園は過密状態）。

福本さんは今回の活動をしたことによつて「いろんなことを見てみぬふりをして通り過ぎることが我慢でなくなっていた」

この頃、西神に仮設住宅が五千戸建設されニュータウンの人口が一・五倍になるとの話が入ってきた——しかも縁故関係も近所付き合いもない知らない街で子育てをする。

福本さんは「いつでも必要な時に必要とする人が使える地域の一時保育所。仮設へ移られて子育てする方のためになれば」と決意した。

五月から保育ルーム“ぴっぴ”が運営されており玄関にある可愛い看板が目止まる。

